ＮＩＥ活動を通した「生きる力の育成」

～ 全教育活動を通して、生徒一人ひとりが自らの「生き方・あり方」を問い続けられる指導はどうあったらよいか ～

長野市立東部中学校　吉　池　光　則

Ⅰ．はじめに

忙しくて新聞を読む間もないために、通勤途上でラジオから情報を得たり、とりあえず一面の見出しだけを確認して出勤などということも多かったりする日常。そんななかで、新聞を読むということが、素材研究であり、教材研究の第一歩というこのＮＩＥ。昨年度、全校体制で取り組めたことに感謝せねばなりません。新聞を読んでいる暇があったら、指導書を読んで研究を！とは言われません。逆に、大いに新聞を読んで、授業導入時に関心を引きつける素材を探すとか、教材化の研究をしなくてはならないわけです。現実社会を生きていくなかでは、様々な情報との遭遇と関わりが、生徒にも私たちにも求められています。以下に一年目（半年間）の実践の概要を報告し、更なる新聞活用の可能性について研究を深められればと考えます。

Ⅱ．新聞活用の環境設定

1　多様な新聞の様子を知り、活用の方策を探るために、８銘柄を一ヶ月に一部ずつ６ヶ月間購読。

「朝日新聞」「毎日新聞」「読売新聞」「日本経済新聞」「産経新聞」「信濃毎日新聞」「長野日報」「中日新聞」８紙を９月１日から２月28日までの６ヶ月間、各一部ずつ購読させていただきました。８紙分の新聞受けを製作していただきました。

2　職員がまず教材研究・検討できるように、職員室に配置する。また生徒の活用については学級当番が学級日誌を取りに来た際に、時事的な話題を「新聞」から得られるよう、学級体制として可能な限りとってもらう。ルーム長会による学年黒板（掲示板）への新聞からの情報提示など、情報教育や教科指導等の活用の可能性を探っていく。同時に図書館等での管理、活用方法も検討していくべくスタート。以下活用の具体手順。

①ＮＩＥ新聞受けより職員室へ（日直当番職員）

②職員室後方の大テーブル上へ一面を表として８紙重ねずに配置（日直当番職員）

③各学級日直当番は７時55分（日直の服務規程による）から８時10分までの15分間に職員室を訪ねる。そこで新聞を一読し時事的な話題をピックアップする（担当生徒の興味関心事でよい）。ピックアップ記事の発表枠を各学級朝の会の進行次第の一項目に加えていただき１分程度で日直当番が紹介する。（＊学級での活用法の一例として提案。）

④日直は必要に応じて当該記事をコピーする。発表使用後は、コピー記事は画用紙（再生紙裏面でもよい）にはり、引用新聞名、日付けを欄外にメモし、学級掲示板にはる。この掲示物は２週間程度掲示しておく。職員室コピー機を使用する。

⑤昼休みに当日図書当番の図書委員は職員室を訪ね、図書館へ新聞８紙を移動する。予め新聞閲覧コーナーを設置し、昼休み、放課後の閲覧を可能とするとともに、同日分を管理す

る。
⑥図書館移動後の必要記事のコピーは、図書館使用のきまりに準ずる。
⑦各新聞バック・ナンバーはデータベースとしての検索使用も考えられるので、バック・ナンバー閲覧可能な棚を準備し2か月分は蓄積保管する。
＊　図書館司書、司書教諭、情報教育担当、全校研究、学級活動、生徒会、各教科会等いろいろな係り分担が機能して、「ものとしての新聞」管理にあたりました。
＊　東部中ブックマーク　http:／／pub.bookmark.ne.jp／toubu／　に「新聞を読もう」各新聞のWebリンクを用意していただきました。 アサヒ・コム朝日新聞 ／MSN-Mainichi 毎日新聞 ／信濃毎日新聞（Shinano Mainichi Shimbun） NIKKEI NET日本経済新聞 ／Sankei Web産経新聞 ／ ◇長野日報ホームページ◇ ／中日新聞ホームページ ／ YOMIURI ON-LINE読売新聞

Ⅲ．研究実践の概要

新たな学習指導要領に基づく教育課程が実施されて3年が経過した。本校の各教科会では、生徒の実態とつける力を基に新聞活用の教材研究を試みカリキュラムの中に配列して試行、展開してきた。実践者数45名と報告した通り、全教育活動に全職員が一丸となって様々な分掌の指導場面、教科・領域の学習指導場面での活用を試みた。その結果、道徳（6）、社会（3）、学級活動（10）、国語（5）、総合（2）、部活動（2）、生徒会（1）、特別活動（1）、理科（2）、音楽（1）、数学（1）、選択理科(1)、選択国語（1）、英語（2）、保健体育（1）、美術（1）、生徒指導（1）といった個人実践レポートが寄せられた。（校内研究集録として上梓した）

Ⅳ．実践内容

◇　具体的な実践事例　①　＜総合的な学習の時間＞

1．研究テーマ

新聞を読んで「考える」習慣形成のあり方

～新聞情報に触れ、社会的な事象に興味関心を持ち、「自分はどう考えるか」の繰り返しから～

2．活用のねらい

読解力など学力低下が問題とされるなか、1年8組の学級生徒の実態においても、活字離れの傾向がみられる。テレビ欄を除いて日常的に新聞に目を通している生徒は一割に満たない現状である。そこで、毎日届けられる新聞に確実に目を通す方法として、日直当番に「注目記事の収集」を義務付けた。輪番制の日直当番が、朝学活で朝刊記事を継続的に紹介することを通して社会的な事象に興味関心をもたせ、更には個々の記事を活用して知識を関連づけたり、今日的な問題・課題に対する自分なりの考えを持ってまとめたりすることができる子どもを育てたいと考えた。

3．活動内容

(1)　注目記事の収集
(2)　要点、記事概要の整理
(3)　注目記事の紹介
(4)　紹介記事から自由討論題材の決定　＊討論は主として道徳で行なう

＊　実践資料　総合的な学習の時間「テーマ設定」資料

新聞から「発見」！②　　1年8組　　番　氏名

新聞から自分が興味関心のあること、学べそうなことを探してみよう

自分が興味を持っていること、身近なことから世界のことまで、その日の出来事から歴史的な発見のこと、今問題になっていることなど、様々な情報が新聞に載っています。新聞から「自分が興味関心をもっていることを」見つけ出してみましょう。

メモの例：新聞名や日付け、見出し記事
信濃毎日新聞　11月26日（金）8面
「善光寺三門　解体修理250年ぶり大掃除、ハトのふん屋根裏5.8トン」

要約：寛延三年の建立以来初の解体修理、ハトがいつから境内にいたかわからないが、ふんの厚さ30センチになっていたところもあった。・・・・・

感想：ハトの糞といっても長い間たまると・・・・

◇　自分が見つけた記事を紹介します

新聞データ　　新聞　　月　　日（　）　　面

見出し：

要約：

感想：

新聞記事のコピー（添付）

4．活動の実際

(1)　自由討論題材活用記事

①　ランドセルの色に悩む親
　男の子は黒で女の子は赤のランドセル、これでいい？

②　中学生の３２%家で勉強「0分」
　勉強は必要ない、これでいい？

③　血液型番組　自粛を要望
　血液型で人間の性格は決まる？

④　ヒトクローン胚研究容認　暴走防ぐ歯止めが前提だ
　もう一人の自分がいてもいい？

事例②

中学生の32%
家で勉強「0分」
ベネッセ調査

家で勉強しない中学生は3割に上り、勉強する際も半数はテレビやラジオをつけたまま―。ベネッセ未来教育センター

事例④

ヒトクローン胚作

ヒトクローン技術

事例①

ランドセルの色に悩む親

ル商戦が本
ここ数年こ
ランドセ
の声をよく
小学生に
ヒを欲しが
入学する娘
クがいい」

ンドセルの
恋だけでな
熱も人気

を聞いた上で、
家庭も多いよう
…「変わっ
じめられるので
配もあるよう
うだったという
聞かない。好き
が楽しくなれば
なのだろう。だが
男女でまだ過半
（昨年、ランド
「クラレ」調
番色」への思い入
来年買う時

(2) 事例の実際「ヒトクローン胚研究容認　」もう一人の自分がいてもいい？

クローン人間禁止法では禁止されているヒトクローン胚の研究が容認。これで全く同じ遺伝情報を持つクローン人間の誕生もありえる…… 最愛の子が死んでしまったら……

- 作らない。たった一人の男の子が死んでしまって、もう一度作り直しても、似てるだけでつくっても別人だと思うから作らないほうがいい。／もし親だったら作らないほうがいいと思ったけど、やっぱり作って戻ってくるのだったら作ったほうがいいと思う。でもいつかは自分が死んだ人の細胞をもとにうまれかわったってきいたらショックだけど、本当のことを言えばわかってくれると思う。（MM）
- 僕が親ならクローン人間の実験を反対すると思う。（ＴＲ）
- 作らない。大切に育てた子がもうもどらないのは悲しいけれど、やっぱり一回死んでしまったのだから、クローンでもどって来ても、親もクローンだと知っているからやっぱり止めたほうが良いと思う。作るという考えや作らないという考え、どっち聴いても作らない方が良いと思った。（ＴＳ）

5．まとめと課題

- 毎朝、生徒が新聞に目を通すには、時間の確保が必要である。朝部活を終えて、日直当番は８時過ぎに職員室にやってきて、新聞一面の見出しの見比べを行なって、短時間の内に朝学活で紹介すべく、注目記事のピックアップを行なう。コピーを取り、朝学活時に、リード文、時間の余裕があれば本文の音読をする。漢字が読めずに、記事紹介がスムーズに行えないことも多い。ただし日直活動が滞ると、新聞紹介の時間も確保できないことがあり、継続性の難しさを実感している。
- また総合的な学習の時間には一斉に新聞を読む（見る？）時間を確保し、興味関心のある記事の収集をおこなったが、時間の関係上、３時間行ったに留まった。
- 生徒が興味・関心を抱く事象を知ることは意義がある。加えて直接教材として活用していけるような記事も幾つかあり、記事を活用して考えさせる道徳の時間の確保など計画していきたい。
- 新聞を読む習慣形成の根本は、新しい情報を知りたい、知識を増やしたいという知的好奇心が根底にあることが大切であろう。生徒がピックアップした記事をもとに、関連付けを図り、もっと知りたいという意欲面を刺激できるような教材化を試み、考える力を養いた

い。

◇ 具体的な実践事例 ② ＜美術科＞

1．研究テーマ

美術の授業における新聞活用方法の模索 ～新聞を使った鑑賞学習の導入～

2．研究の経過

(1) 美術科で培おうとしてきた「生きる力」を生徒の学びの姿から振り返る

生徒の学びの実態を把握し,美術科におけるつけたい力と生きる力の関連性をとらえ直した。以下は美術科における「生きる力」と考えている。これら力のトータルなものを育成していくことで、本校美術科研究テーマの「美しさやよさに学び」「表現する喜び」の実現につながると考え研究を推進してきた。

生きる力	その１	①美しさに気づく ②独自の発想をする ③造形的に構想していく (発想力)
生きる力	その２	④多様な表現の仕方を工夫する ⑤意図や用途に応じた創作をする (創造力)
生きる力	その３	⑥美しさを味わう ⑦多様な表現のよさを感受する (鑑賞力)
生きる力	その４	⑧映像メディアを活用する ⑨映像を取り入れて伝達・交流する (表現力)

3．「美しさを味わい多様な表現のよさを感受する力」（重点 生きる力その３）の基礎・基本のとらえ

(1) 関心・意欲・態度 「学ぼうとする力」

① 作品や対象を見つめようとする

② 一つの作品から発展的に見つめようとする

(2) 創意工夫・発想・構想 「学ぶ力」

① 美しいもの・ことに気付く

② 感動した思いを造形的要素（色や形）に整理する

(3) 知識・理解・技能 「学んだ力」

① 感動した思いを整理する

② 感動した思いを相手に伝える

Ⅴ．実証授業

1．単元名「発見！美と芸術 ― 世界は美と芸術でいっぱいだ ―」 （１年 ３時間）

2．題材設定の理由

単元「アニメーションにチャレンジ」でコンピュータを活用した美術表現に興味をもった生徒達。生涯学習へと結びつく鑑賞教育の充実を目指して、地域にある美術館などを頻繁に活用したいところだが、校内で統一性のある時間割の性格上それほど簡単に、どのクラスも校地外へ出かけられるというフレキシブルな状況にはないのが現実である。一方で学校教育現場へも浸透したインターネットという媒体を通して、バーチャルではあるものの、授業時間内に世界各国の美術館を訪問し、作品を鑑賞すること、検索することが可能になった。ＩＴ社会の進展に伴いコンピュータを用いた造形活動は、作家に限った状況でなくなっている。コンピュータの特性を生かした授業での活用、生徒はこういった領域に多大な関心・意欲を見せており、美術への主体的な関わりが期待できると考え、本題材を設定した。

3．生徒の実態

身体を動かして活動することを好む活発な生徒が多く行動的である。一方、落着いた中での読書を好んだり、総合の時間に新聞を読むことを楽しみにしたりしている生徒もいる。美術の前単元「アニメーションにチャレンジ」においては、コンピュータ操作になれない生徒が多かったものの、複数のセル画を丹念に描き上げて動画短編を最後まで仕上げるなど、その制作時間を楽しみにしている生徒が多かった。課題的に困難があると強い抵抗感を示す事があるが、制作の道筋や解決の方法が見えてくると主体的に制作、行動できるところが見られる。

4．目標

(1) 「発見！美と芸術　世界は美と芸術でいっぱい」(鑑賞)　1学年3時間

美術作品や文化遺産などに親しみ、感性や創造力を働かせてよさや美しさを感じ取り味わったり、理解したりする。

(2) つける力

① 古代から現代美術の世界の代表的な作家作品とその特徴的な要素を知ることができる。

② 作品に用いられた技法や考え方の特徴を理解し表現の多様性に気づくことができる。

③ お互いの発見を意見交換して作品を見つめ直し、作品から得た感動を伝達していくことができる。

＊ 目標の発展 → 様々な美術作品を鑑賞し、その特質や相違、独自性や共通性ついて関心を高め、美意識や創造的精神について理解する。

5．題材の評価規準観点

(1) 育てたい能力と態度

① 多くの作品を見たいと思う美術への関心

② 美術作品の鑑賞に親しむ態度

③ 自分の感じ方を大切にして、よさを確かめようとする能力

④ 文化遺産について理解を深め、特色や歴史的背景について考える能力

⑤ 作者の気持ちを表し方などから洞察する能力

⑥ 感じたことを人に伝え仲間と進んで交流をもとうとする態度

(2) 鑑賞力：潜在的についていく力として観察、凝視、鑑賞といった「ものを見る目」の質的な高まり。以下の①～⑤の段階を想定した。

① 作品を見て刺激され、好き嫌いや連想から判断

② 対象の美しさや技量に注目する

③ 作品に表れた作者の体験や感情を読み取る

④ 作品の背後にある歴史的、社会的状況の分析、その意味の理解、その様式の理解

⑤ 自分自身の体験と重ね合わせて価値付けをする

＊ 但し、本題材においてはインターネットを活用することから、必要な情報を得ていくための情報処理能力も、鑑賞行為を大きく左右していくと考えられる。このことは、美術館に辿り着く前に、美術館へ行くためのバスや電車への乗り方の段階でつまずき、美術館へ行く事すら出来ないという段階の生徒も有りえることを想定しておかなくて

はならない。このつまずきを取り除く事で、本来の鑑賞学習が始まることを確認しておきたい。

6．教材研究

(1) 美術関連の新聞記事

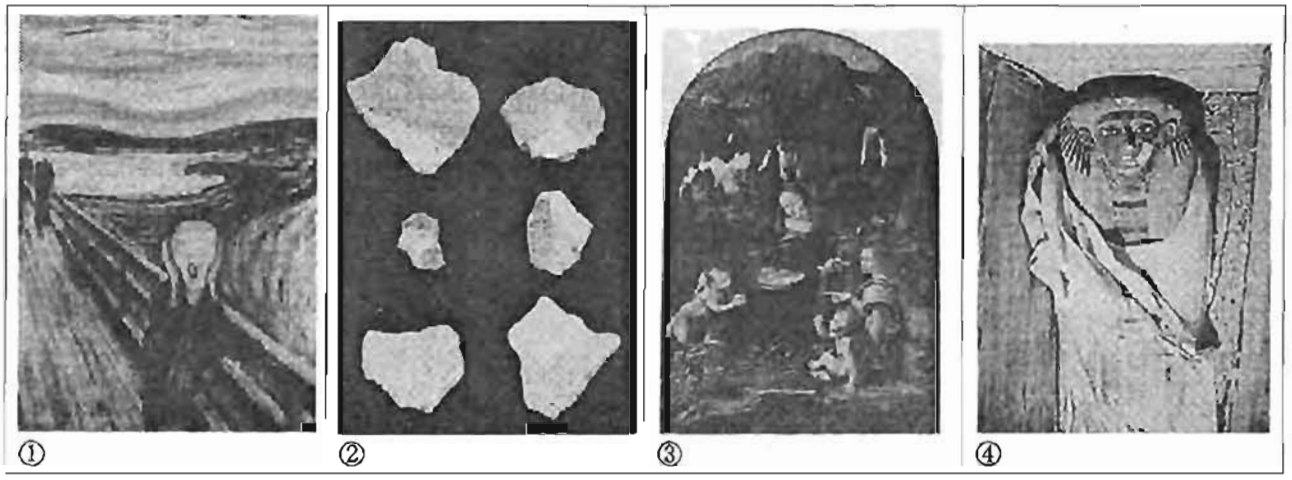
① ムンクの「叫び」強奪　2004年８月23日　信濃毎日新聞（図版資料１）

② 法隆寺から最古の壁画片　2004年12月２日　中日新聞　（図版資料２）

③ 体感、工房の息吹「ダ・ビンチ工房跡」探訪　2005年２月２日　読売新聞　（図版資料３）

④ 早大調査隊、エジプトで未盗掘のミイラ発見　2005年１月22日　信濃毎日新聞（図版資料４）

(2) 関係図版



(3) 新聞記事から抽出した「検索キーワード」

① ムンク／ムンク美術館／エドバルド・ムンク叫び

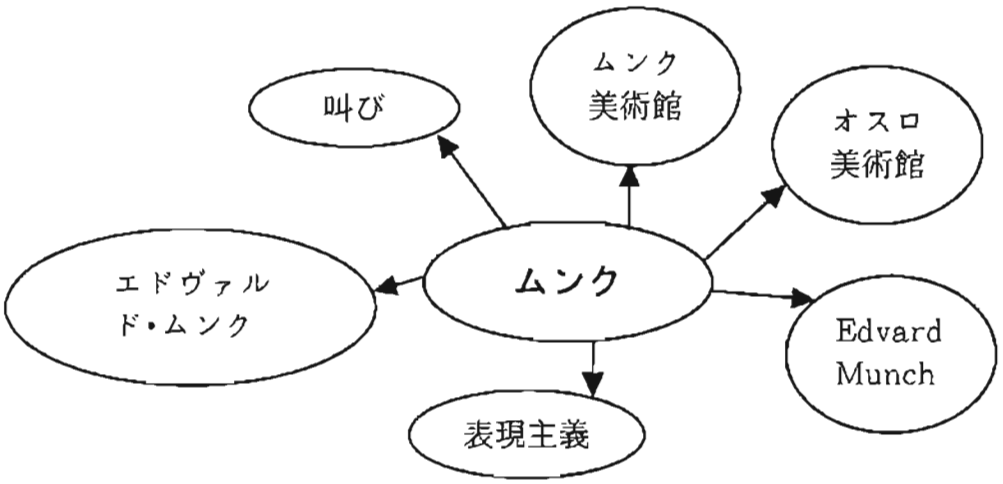
② 法隆寺　壁画／天寿国繍帳／顔料／陶磁器／飛鳥時代

③ レオナルド・ダ・ヴィンチ／ダ・ヴィンチ工房／ルネッサンス

④ エジプト・ダハシュール北遺跡／古代エジプト第１３王朝／彩色木棺

(4) 「検索キーワード」から派生する新たな「キーワード」の可能性

例　＜ムンク＞



(5) インターネットを活用した検索キーワードによる美術情報へのアクセス

インターネットの活用はほとんどの生徒が経験済みである。とりわけ「検索」には、「ヤフー」検索エンジンを使用する生徒が多いだろう。以下は (2) で挙げた検索キーワードをもとに、「グーグル（日本語)」にて検索した情報の数である。これでは情報の山というのか海の中にあり、絞り込み検索が必要である。何れも日本語への加工情報であるので、本来ならば 'leonard daVinci' や 'Edvard Munch' などのキーワードが望ましいところだが、生徒の実態上言語的制約があるため、日本語を用いた検索とする。

1. レオナルド・ダ・ヴィンチ の検索結果 約 42,600 件
2. レオナルド・ダ・ヴィンチ 発見 の検索結果 約 8,350 件
3. ムンク の検索結果 約 49,300 件
4. ムンク 叫び の検索結果 約 19,900 件　　後略

7．単元展開

過程	時間	学習活動	◇指導・●評価
導入	1	○美術に関する新聞記事を基に、検索用のキーワードを洗い出し、調査対象作品や作家、美術館を決めだす。	◇収集した新聞記事のなかから、知っていることなどを自由に発表させる。 ・記事中の美術関連用語（キーワード）を確認していく。 ●インターネットを活用して検索するために新聞記事のなかに見られるキーワードを決めだすことができたか。 ◇決定したキーワードをもとに、鑑賞素材を見つけ出すインターネット検索の方法を確認し、各自の調査活動を促す。 ●鑑賞題材について、自ら情報収集し、あらたな知識を獲得する意欲がもてたか。
展開	1	○　キーワードを基に、インターネットを用いて関心のある作家や、作品を検索していくなかで、作家のその他の作品や技法、エピソード等についてまとめる。	◇関心をもった作者と作品についての継続的な調査を促す。 ・検索キーワードを複数用いながら鑑賞素材を収集して、調査対象作品から表現のよさや美しさなど新たな発見が得られるようにする。 ●対象作家の生涯や美術作品についてのエピソードなどを調べることを通して作家の考え方や作品のよさを感得することができたか。 ・美術館公式ＨＰをはじめとして作品や作家情報掲載のＨＰ閲覧を通して、作家のその他の作品や技法、　エピソード等から感じ取ったことについてまとめる
まとめ	1	○調査の結果、発見した各自のお気に入り「作品」をお互いに鑑賞し、作者や作品のよさを感じとる	◇各自が選び出し、調査した作品を鑑賞し、そのよさをメモし意見交換するよう促す。 ●各自のお気に入り「作品」を鑑賞し、作者や作品のよさを感じとることができたか。

8．本時案

(1) 主眼

美術作品の鑑賞に興味をもっている生徒が、美術史上の著名な作品についての知識を獲

得していく場面で、新聞に取り上げられた美術関連記事中のキーワードに着目させることを通して、インターネットを用いて作家や作品の関連情報を検索し、美術作品や作者などについて新たな知識を得ることで、美術作品や文化遺産などに親しみを持ち関心を深めることができる。

(2) 本時の位置　全３時間中１時

(3) 指導上の留意点

① 態度：コンピュータ機器活用及びインターネット活用のマナーを守る。個々の閲覧・鑑賞状況を見極め必要に応じて机間指導で個別に支援する。

② 表現技能：情報の取得について、ＨＰ記載事項をそのままコピーして自らの感想とすることのないようにする。機械操作上の躓きに即応し、可能な限りの閲覧、鑑賞時間を確保する。

(4) 準備品　作家作品集（全集より抜粋)、インターネット接続可能なコンピュータ、学習カード

(5) 展開

過程	学習活動	予想される生徒の反応や意識の流れ	・指導　○評価	時間
課題設定し	1　検索キーワードを確認し、インターネット検索の手順を理解する。	学習課題：自分が関心をもつ作品について調べよう。 ねがい：この作品についていっぱい知りたいな。早速調べたい！ ・あの作品、知ってる、美術館のＨＰ訪ねてよく見てみたいな。 ・どれについて調べようかな・・・	・新聞記事をもとにキーワード決定を促す。 ○検索活動に際して自分の課題把握ができたか。	5
追究し	2　各自決定した検索キーワードをもとに閲覧、鑑賞をはじめる。	学習問題：この作品はどうやって描かれたものなんだろう。／他にどんな作品があるんだろう。／この作品の作者はどんな人なんだろう。 ・作品名や美術館名を基に調べていくと良さそうだ。 ・集中して検索・閲覧始める　・閲覧のきっかけがつかめない ・探究対象が明確になり集中◆▶ただ何となく閲覧している。 ＊机間指導、個別のつまづきを把握、支援。閲覧対象への共感。	・決定したキーワードをもとに検索を促す。 ○作家や作品の関連情報を検索し、美術作品や作者などについて新たな知識を得ることができたか。	38
まとめる	3　本時の活動を振り返り、調査し鑑賞した活動ついて感想を発表する。	鑑賞した作品について振り返ってみよう。 ＊学習カードのメモをもとに鑑賞を振り返る。（本時の自己評価） ・ムンクの作品について興味がわいてきました。 ・この他の作家や作品について知りたくなりました。	・学習カード感想記入 ○鑑賞活動を通して美術作品や文化遺産などに親しみを持ち関心を深めることができたか。	7

9　実証の観点

(1)　新聞記事中の美術関連記事をもとに、検索キーワードを決め出して、インターネットで検索させたことは、作家の情報を得たり、新たな作品と出会ったりすることで、美術作品や文化遺産などに親しみを持ち関心を深めるのに有効であったか。

(2)　複数の検索対象を提示したことは、自分の興味関心に基づいた追求をする鑑賞学習単元のはじまりとして相応しいものであったか。

Ⅵ. 授業の実際と考察

1．学習カード（調べたり、新たに発見した作品についての感想）より

- ダ・ビンチさんは、いろんな作品を作っていたのでビックリ！！天才と言える人だったそうです。そしてその作品を実際に見ると、色使いがきれいで、すごいなぁと思いました。（O．M）
- ムンクの叫びの絵の背景のことがわかったけど、ムンクがなぜ「叫び」という題名にしたかは分からないので、今度時間があったら調べたい。（T．S）
- ムンクの叫び、絵をよく見ると描いている人の思い（不安な）があると思う。今も盗難にあっていて無いらしい。ダ・ヴィンチの描いたモナリザにはたくさんの謎があることを知った。どちらの作品にも描いた人の思いがあると思う。（H．K）
- 古代エジプトの仮面は金色に光っていてすごかった。仮面から分かった事で、ツタンカーメンはえらい人だと思った。（T．R）

2．考察

- 学習のきっかけになる「キーワード」を探すために、提示した新聞記事をじっくり読んでいる生徒の姿が印象的であった。美術学習の種は新聞記事の中にもあることを確認した。
- 新聞をきっかけにした学習を更に発展させるにあたって活用したインターネットであるが、新聞記事の電子版や、他人の感想など書き込みといった二次的情報なども多く、作品や作家探究をするには情報の間口が広いように思われる。しかし、複数の写真図版や美術館の公式サイトなどバーチャルではあるが、発展的な知識を獲得していく上で有益である。
- 新聞に限らず、膨大な情報に接し、正確な情報を自ら取得し、知識として蓄積していくことは「生きる力」として大切なことであると考える。

3．資料（関連取材記事）

図版① 中日新聞「紙面とネットで美術入門」

図版② 信濃毎日新聞「新聞で広がる視野」

Ⅶ. 2年次に向けて

1．16年度の成果と課題

① 分野や教科を限定せずに、全校研究体制で新聞を活用しようと取り組めた事は、全職員によるＮＩＥ研究への取り掛かりとして意義があった。

② 8紙の記事内容に踏み込んで比較検討する、素材の教材化の時間はほとんど無い状況にあるが、時事性、適時性を意識し、生徒の教育に有効な活用法を追究したい。

2．17年度の方向

① 授業での活用とともに、新聞に主体的に関わっていける環境、学習の流れを模索したい。

② 教科・領域における教材化の取り組みの継続と、開発教材による実証授業。

おわりに

新聞活用教育の研究については、9月からの6ヶ月間、記事を直接的に活用したり、記事を基に教材化を試みたりと、教職員によって様々な実践が行なわれてきました。実社会に今ある問題を捉えた記事で「道徳」授業を行なったり、社説記事、投書記事に対する自分の考え方を明らかにさせる「進路・生き方」学習だったり、新聞を読む時間を意図的に確保する事で、活字を読む事、記事を読んで考える事、要点をまとめる事などの学習等、ゼロから始めたＮＩＥ研究ですが、「こんな使い方もできるんじゃないか」といった我々自身の教材観を問う段階から始めて、「この記事を使った時は、生徒が興味深く話を聞いて、学習展開の上で導入に適していた」とか「メイン教材として活用してこんな力がついた」といった授業実践レベルまで、この半年で一気に進めたわけです。新聞を提供いただけたことに感謝いたします。